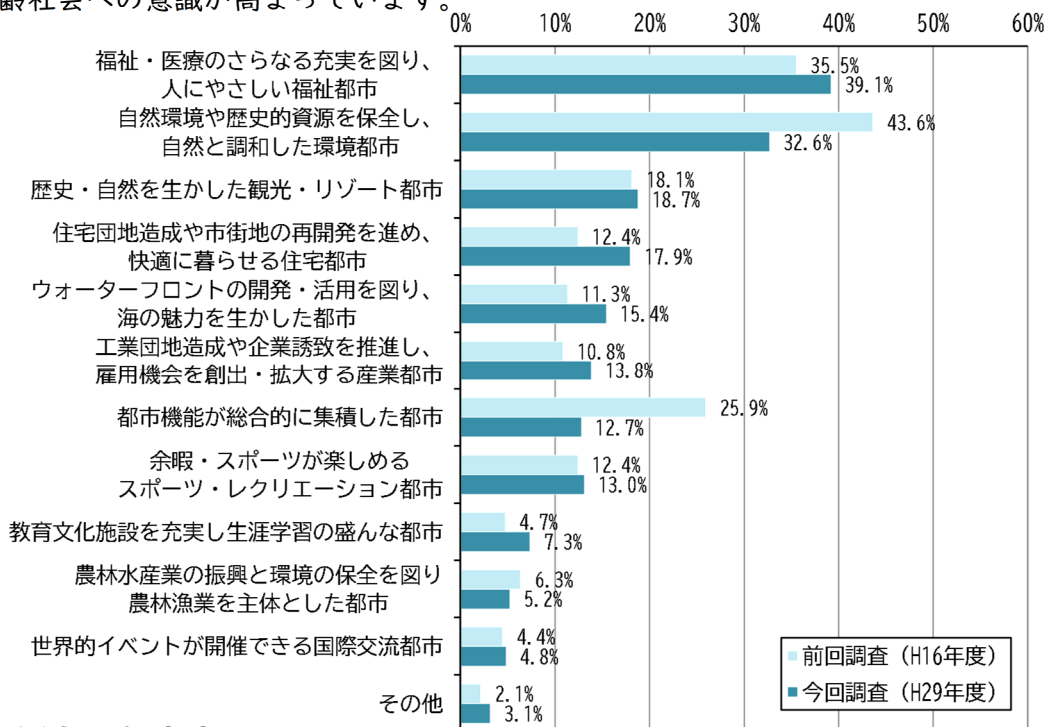


3. 市民意向

都市づくりに対する市民の意向を把握するため、2017（平成 29）年 11 月に市民意識調査（市民 6,000 人を対象）を実施し、前回（2004（平成 16）年）と比較すると、以下のような傾向が見られます。

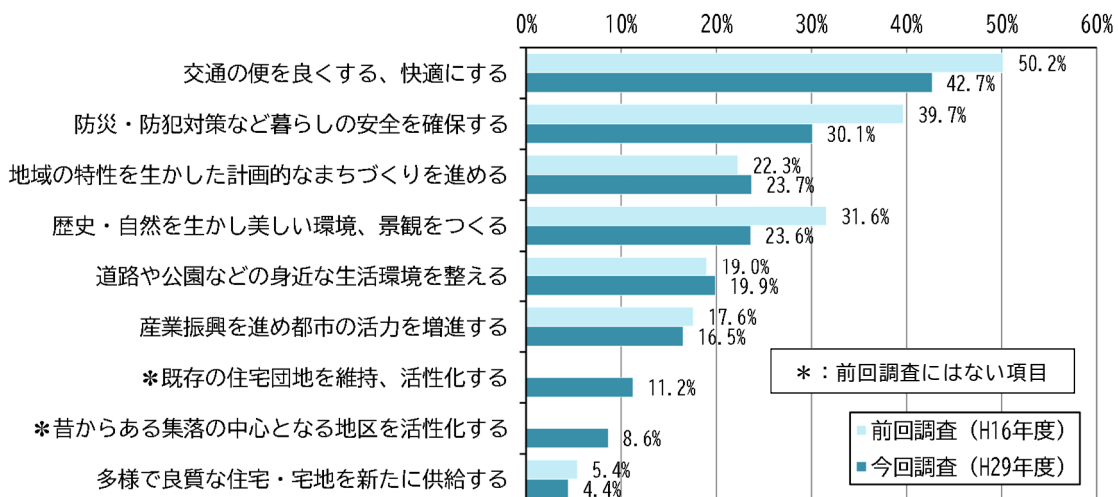
① 望ましい都市発展の方向性

4 割の方が「福祉・医療のさらなる充実を図り、人にやさしい福祉都市」を望み、前回調査で最も多かった「自然環境や歴史的資源を保全し、自然と調和した環境都市」と逆転しており、深刻化する超高齢社会への意識が高まっています。



② まちづくりで優先すべきこと

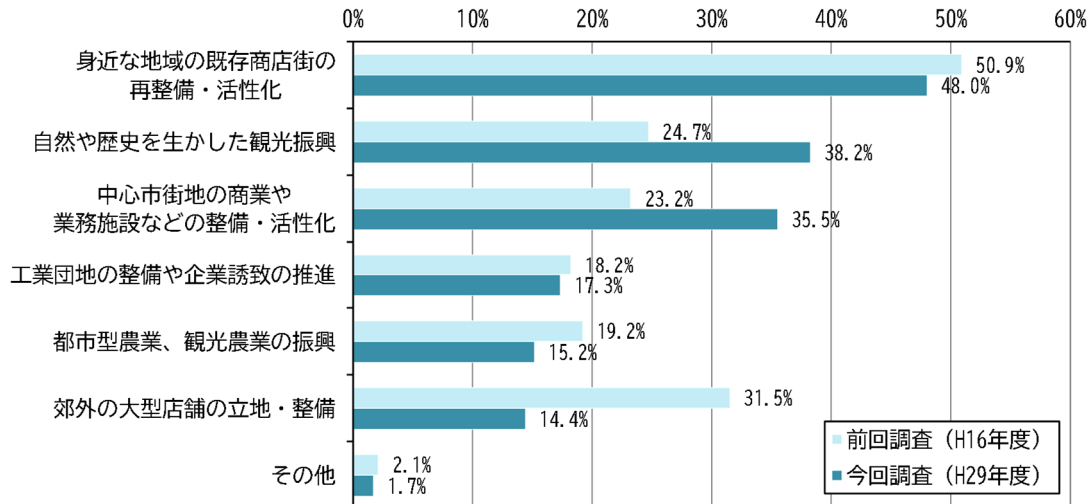
「交通の便を良くする、快適にする」を望む傾向が高いなど、全体的な傾向は、概ね前回調査と変わっていませんが、新たに追加した「既存の住宅団地を維持、活性化する」と「昔からある集落の中心となる地区を活性化する」を望む方がいます。



第1章 都市づくりの課題と方向性

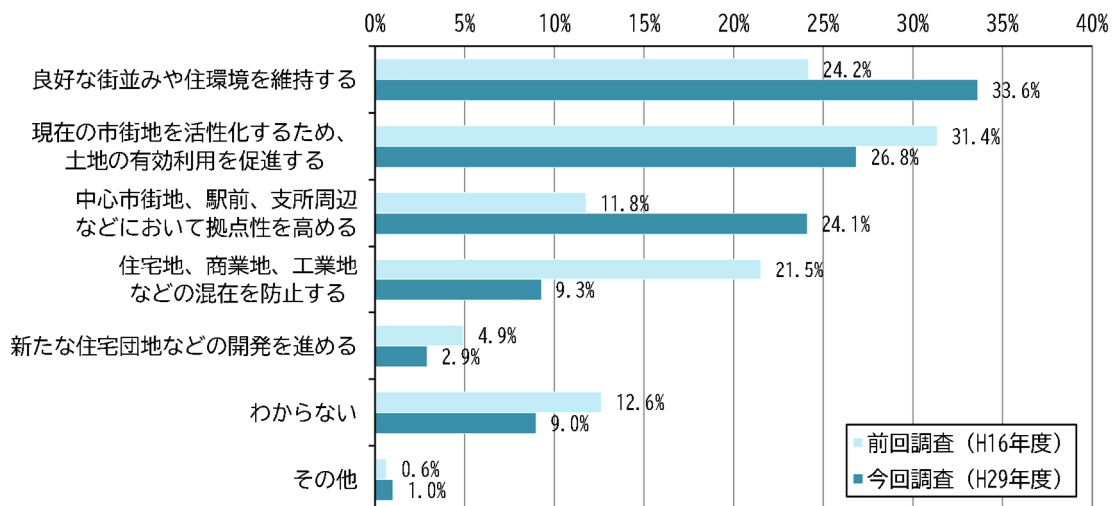
③ 活気あるまちづくりについて優先すべきこと

「身近な地域の既存商店街の再整備・活性化」を望む傾向が高いなど、全体的な傾向は、概ね前回調査と変わっていませんが、「自然や歴史を生かした観光振興」や「中心市街地の商業や業務施設などの整備・活性化」を望む傾向が高まっており、「郊外の大型店舗の立地・整備」を望む傾向は大きく減少しています。



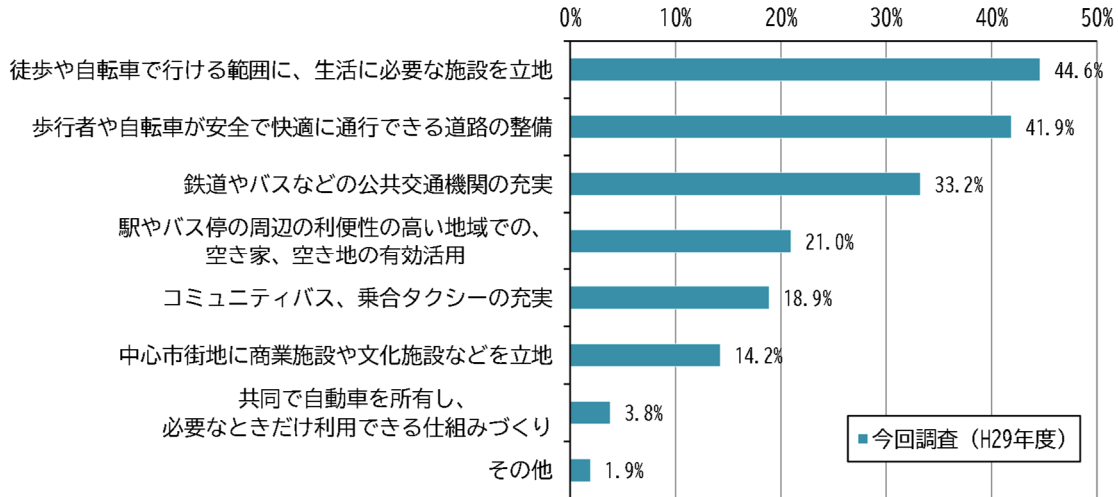
④ 市街地の土地利用規制・誘導の方向性

前回調査と比べて、「良好な街並みや住環境を維持する」や「中心市街地、駅前、支所周辺などにおいて拠点性を高める」を望む傾向が高まっています。



⑤ 歩いて暮らせるまちづくりについて優先すべきこと

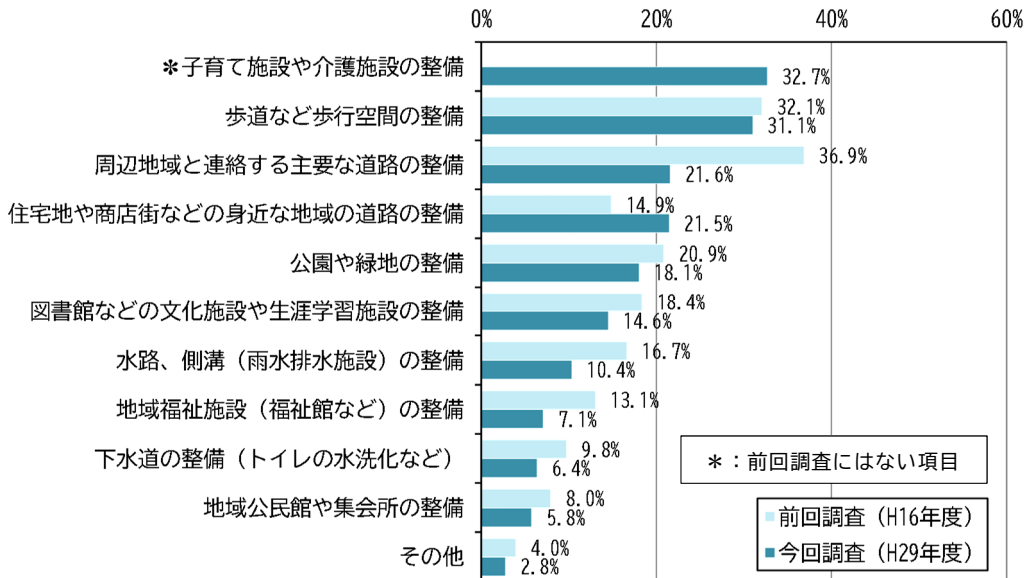
最も多くの回答があったのは、「徒歩や自転車で行ける範囲に、生活に必要な施設を立地」であり、次いで「歩行者や自転車が安全で快適に通行できる道路の整備」、「鉄道やバスなどの公共交通機関の充実」となっています。



⑥ 地域の生活基盤施設の整備について優先すべきこと

最も多くの回答があったのは、「子育て施設や介護施設の整備」であり、次いで「歩道などの歩行空間の整備」となっています。

前回調査と比べると、「住宅地や商店街などの身近な地域の道路の整備」を望む傾向が高まっています。

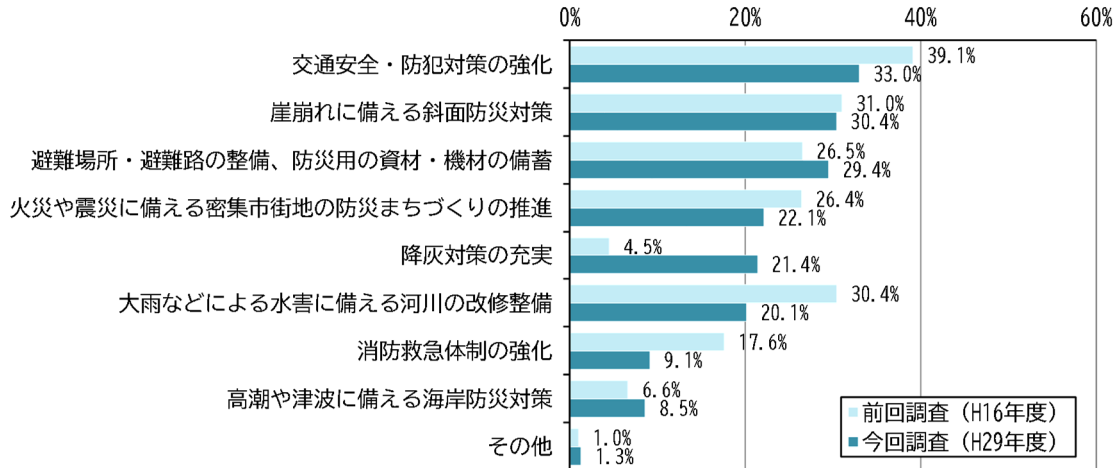


第1章 都市づくりの課題と方向性

⑦ 安全なまちづくりについて優先すべきこと

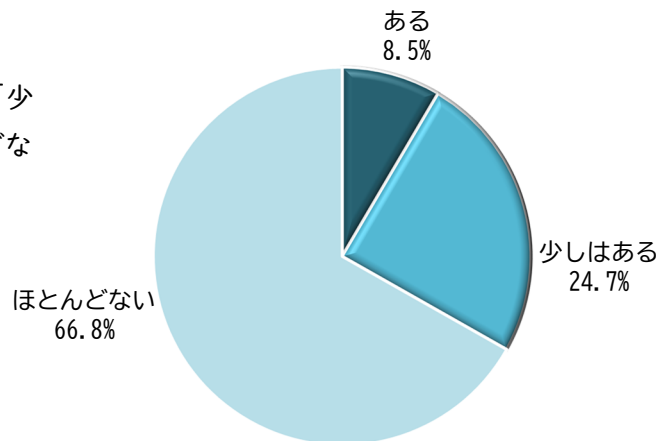
最も多くの回答があったのは、「交通安全・防犯対策の強化」であり、次いで「崖崩れに備える斜面防災対策」、「避難場所・避難路の整備、防災用の資材・機材の備蓄」となっています。

前回調査と比べると、「降灰対策の充実」や「避難場所・避難路の整備、防災用の資材・機材の備蓄」を望む傾向が高まっています。



⑧ 都市計画の認知度

市の都市計画について、聞いたことが「ある」「少しはある」は3割程度であり、7割が「ほとんどない」となっています。



⑨ まちづくりへの参加の意向

5割の方がまちづくりへの参加意向があり、そのうち積極的な参加意向がある方が全体の6%となっています。

